

## なぜ セイフティレコーダ（SR） を開発したか？

株式会社 データ・テック  
代表取締役社長 田野 通保



当社は、旋回や停止など車の動きのセンサーを開発販売しており、当然ながら車メーカーとのつながりや要求に接する機会が多々あります。そんな状況のもとで、SR開発の原点になることが発生しました。或るメーカーの担当者の方が「保険を含めてトータルで車の価格を下げる方法はないか？特にスポーツカーなど高級車ほど保険が高くなる」とふっと言葉をもらいました。

保険を安くしたい 事故原因を究明 相手の過失を証明・・・なにか装置をセットすることで事故が発生したときの自分の過失が少ないことの証明が出来れば、つまり、保険会社からの支払い保険金を減額できれば、とどのつまりは保険料も安くできるのではないかと。「そうか自分が悪くないことを証明する装置を作ればいいのだ」との結論で、意気揚々とまずは運送会社にデモを持ち込み意見交換をしました。

ちょうどその頃「ダイアナ」さんが自動車事故で亡くなられたことで、SRのデモ版はNHKはじめテレビ、ラジオ、新聞に盛んに紹介されました。「これがあればダイアナさんの事故原因も究明できた」と。ところがユーザーの反応は全く異なり「事故がおきたらあとは保険会社の仕事。事故を起きないようにしたい」。

なるほど、事故がおきないようにする装置。それなら

- (1) 普段の運転から事故要因を割り出し、
- (2) 使い勝手を簡単にし、

日常の運転から見直すようにすれば。

そんな役割の原理から、SRを開発し直し、事故に関連する事業体全てに再度提案していきました。保険業界、リース業界、車メーカー、レンタカー、電力、ガス、電話会社、もちろん運送会社にも。

開発を開始して5年程ですが、車を持つあらゆる業界にSRの存在が浸透していき、僅か20人足らずの会社の製品が大きな評価を得るに至っています。年々台数は増加し累計で7000台程度販売するに至りました。

SRは進化する機械です。皆様のご意見で機械の性格や評価方法ソフトなどは、発展、拡充できるものとして作られております。今後とも貴重なご意見をいただき進化を進めることでますます利用範囲が拡大するものと思っております。引き続き変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

環境に、人に

やさしい運転

私たちの合言葉です！

## 安全運行で、事故撲滅に加えて省燃費と経費削減を！

事故削減、省燃費、アイドリングストップ、環境問題は業界全体で取り組んでいる重要な課題であります。羽田運輸株式会社では、それらの課題に真正面から取り組む一環としてISO14000の取得を実現しました。資格取得を契機に、事故削減、省燃費、環境問題に対し、具体的な対策を講じ全社一丸となって活動を繰り返すことが不可欠となっております。

自社として実践しなければならない課題もありますが、周辺企業との協力を通して実践効果を高めて行かなければならないことも多々あります。荷主企業との話し合い、機器メーカーとの相談、トラックメーカーとの協議とさまざまな機会に遭遇しますが、その話し合いを通して、お互いに勉強し努力していくことが大事なのだと思っております。

市場が求めるものを実現することに経営の視点を定めております。データ・テック社のセーフティレコーダは、データ・テック社との協業の結果採用に至ったものであります。デジタコと同じようなデータが取れ、さらにデジタコでは取れないデータが取れること、自分たちで取り付けられ、乗せ替えが出来るところが大きなメリットになると採用を決めました。事



故削減、省燃費、環境問題は、運送事業にとって社会的使命を担う責任ある課題であります。安全運行の実現は、普遍的なテーマとして、経済の好不況に関わらず対処を余儀なくされていると考えております。事故を起こせば多額の損害と信用を失うことになりま。セーフティレコーダの持つ特性を十分に活かし、事故の撲滅を図りたいと考えております。安全運転、安全運行を実現することは、事故を未然に防ぐことに帰結し、運転診断で高得点を取れば結果的に、省燃費、経費削減にも必ず結びつくと思っております。

## 寄稿

岩橋 賢児（株式会社 イフコ）

## 輸送工程にもう一つの目を！！

～これからは、見えなかった輸送現場が見えるようになる～

運転する人だけが体験する走行上でのあぶないと感じる経験（ヒヤリハット）を、会社の同僚・同業者の仲間などトラック運転にかかわるできるだけ多くの人達が共有し、見えにくかった輸送工程の現場を再現し、自分達のみで体験（視覚上での体験）が出来れば安全に対する意識もかわってくると考えております。見えなかった輸送工程も見える（「輸送工程の可視化」）が運行安全を支えていく大きなツールにな

って行きます。

トラック事業経営者にとっての重要な関心事の一つは、お客様から預かった品物を指定どおり届けるために、輸送品質を守り、運行安全で無事戻って来てくれること、「今日も一日、無事故で仕事完了しました」との報告を聞けることに尽きると思っております。「従業員に対する安全教育と安全意識高揚」は、共通したテーマとして日々取り組まなければならないと思っ

おります。

種々な教育施設・教育資料・教育ビデオ等が作られ、今後も作られて行くことになると思います。何れも、その効果が十分に発揮されてきてはおります。

しかし、ワンマン運転がトラック輸送の実態となっている現実から、1人の運転業務に運行安全の全てが覆い被さっていることに注目する必要があります。これからの、運行安全については、輸送工程の現場が見える状態に如何に近づけるかが、事故撲滅に繋がる近道ではないかと考えます。

「車庫を出発し、車庫に帰着する」までの輸送工程途中で、行き交う車両・自転車・歩行者・動物などと思わぬ事態に遭遇することもあり、一日として同じ時間帯で全く同じ道路交通環境であることはないと思います。このように、「輸送工程の可視化」に強力なツールとして、データ・テック社が開発した「SR及びDVR映像システム」は、まさに、輸送に従事される皆様の運行安全を維持する救世主になっていくことでしょう。

## SRとはどんなもの

## SRは眼もある車載端末なんです！

映像を加えることで安全運転や事故予防にお薦めー

### 眼（カメラ）があるということ

安全運転や事故予防を効果的にするために開発データ化して見られることで自分の運転を客観的に見られます

ハンドル、ブレーキ、アクセルの操作や車体に掛かる力などをもとにSRが危険な運転と判断した前後30秒間の映像を自動的に記録する。発生場所や時刻も合わせて記録します

### 危険な運転 - 映像による再現

動く再現映像です

映像が映っている場所が表示されます

映像に映っているときの運転状況が波形グラフで表示されます

左カーブ後突然飛出し車両

## クライアント企業

### 運送会社

羽田運輸、愛知陸運、前山倉庫、ソーワトランスポート、新木商事、千代田運輸、明治ビバリッジ、アサヒロジスティクス、コープとうきょう、日本通運、ダイワ運輸、協栄流通計量計画研究所、国立環境研究所、産業技術総合研究所、国土技術政策総合研究所、日本自動車研究所、日本気象協会、神奈川県警、科学警察研究所、日本道路公団、省エネルギーセンター

### 官公庁・研究機関

### 大学

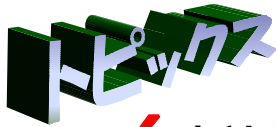
東京大学、筑波大学、北海道大学、東北大学、室蘭工業大学、山形大学

### 自動車メーカー

トヨタ、ホンダ、日産、マツダ、日産ディーゼル、日野自動車、豊田中央研究所、アイシン精機デンソー、富士重工

### その他

イフコ、オリックス・オート・リース、東京電力、東京海上、NTT、日立製作所



## ✓ 当社セイフティレコーダに奨励賞！

去る 2 月 13 日から 15 日の 3 日間（財団法人）大田区産業振興協会の主催による第 14 回大田区中小企業新製品・新技術コンクールが大田区産業プラザを会場に催された。当社から出品したセイフティレコーダが奨励賞に輝き会場に集まった人々から注目を浴びました。

## ✓ わが社とわが社の製品がテレビで紹介されます

3 月 24 日（月）テレビ東京『モーニングサテライト』（5：45 am ~ 6：40 am）の番組の中の『再生への担い手』に当社が出演します。番組の中で当社の仕事振りと製品が紹介されます。ぜひご覧下さい。

### イベントご案内

展示会名	センサ総合展 2003	TEPIA 第 15 回展示
会場	東京ビックサイト （東ホール）	TEPIA（機械産業記念館）1 階 東京都港区北青山 2 - 8 - 4 4
期間	2003/4/9 ~ 2003/4/11	2003/4/9 ~ 2003/7/25
主催者	日刊工業新聞社	財団法人機械産業事業団
HP (http://)	www.jij.co.jp/event	www.tepia.or.jp/15th/gaiyo.html

展示会名	データ・テック プライベートショウ	人と車のテクノロジー展
会場	政策投資銀行 東京都千代田区大手町 1 - 9 - 1	パシフィコ横浜
期間	2003/4/15	2003/5/21 ~ 2003/5/23
主催者	株式会社データ・テック	社団法人自動車技術会
HP (http://)	www.datatec.co.jp	www.jsae.or.jp/02evnt/calender.html www.pacifico.co.jp/2th/convention/index0905.html



#### 編集後記

S R ニュース創刊号の発刊に参画できたことは、大きな楽しみと同居するということが見えております。交通事故を無くそうという大義が多くの方々の共感を呼び、多くの方が関心を注いでくれることとなります。仕事は、社会との関わり合いが深ければ深いほど緊張するし、楽しみも倍増するものです。大勢の人の参画を得て S R ニュースを内容のあるものに仕上げようとして行こうと編集者も燃えております（LoMac）